

歴史を歩く 47

おおさきの歴史を旅してみませんか⑬
 (近世以降の行政の中心となった地域(馬場・城内)
 牟田地を埋め立てて発展した商業地(三文字地区)①)

天正5年(1577年)島津氏の武将比志島美濃守国守が初代地頭となり、馬場集落・城内集落にあった高台に新たに『大崎城』を築造しました。慶長5年(1600年)の大崎郷創設以降、馬場は行政の中心地となり、馬場集落・城内集落・丸尾集落・仮宿下集落あたりまでは郷土の居住地である『麓』に属しました。



1 天満大自在天神跡

祭神は菅原道真。現在は役場敷地として削られてしまつて部分的に都萬神社の敷地が残る。天正年間(1500年代)にどこからか移されたものと言われている。

2 地頭仮屋跡

慶長5年(1600年)に馬場・城内を麓とする大崎郷が創設。現在の大崎小学校敷地北側に地頭仮屋があったと推定されている。

3 大崎地頭迫水伊予介久光の墓碑

大崎郷の創設時の地頭であったと言われている迫水伊予介久光の墓碑。文政10年(1827年)に久光の子孫である迫水久徳が建立したと記されている。



4 大崎城跡

天正2年(1574年)、肝付氏が島津氏に降伏した後、天正5年(1577年)島津氏の武将比志島美濃守国守が、初代地頭となり、この地に新たに大崎城を築造した。

現代の宅地造成によって城の大部分は失われている。

堀割・・・城などの防御のため周囲を掘り下げたところ